

# 水戸街道 二十ある宿場町の

## 五分の一は土浦市!!

〳 荒川沖宿・中村宿・土浦宿・中貫宿 〵

菅谷小 六年 川村 航平



子ども郷土研究は、調査・研究を通して郷土の歴史や文化について関心を持ち、郷土「ちづら」への理解を深めることを目的に実施しています。今回は最優秀賞に選ばれた作品をご紹介します。(一部省略)

応募全作品は2月18日(日)まで上高津貝塚ふるさと歴史の広場で展示しています。

関上高津貝塚ふるさと歴史の広場(☎826・7111)

### 研究の動機

僕は四年生の時から毎年郷土研究をしています。昨年、関の砲術について調べていた時に偶然板谷の松並木の紹介看板を見つけ、水戸街道という道があったことを初めて知りました。今年歴史を学ぶようになって、さらに水戸街道に興味をもつようになり、土浦市に残る四つの宿場町について、昔と今を比較しながら研究してみようと思いました。

### 研究の方法

- ①図書館やインターネットで調べる。
- ②専門家に聞きに行く。
- ③実際に行ってみる。

### 研究結果

#### 〵二水戸街道について

水戸路や水戸道中ともよばれ、土浦城北門から北を水戸道、南門から南を江戸道といいました。五街道につぐ重要な道路で、佐倉道中とともに七街道ともいわれています。日本橋を起点として千住宿―葛西宿―松戸宿―小金宿―吾孫子宿―取手川渡し―取手宿―藤代宿―鬼怒川渡し―若柴宿―牛久宿―荒川沖宿―中村宿―土浦宿―中貫宿―稲吉宿―府中宿―竹原宿―片倉宿―小幡宿―長岡宿―水戸へと続きます。

一里ごとに一里塚が設けら

れ、市内でも板谷、荒川沖などに残っています。



▲板谷の一里塚

#### 〵三宿場と助郷

宿場とは街道の要所であり、旅行者の宿泊・休息のための宿屋や茶屋、人馬で次の宿場まで荷物を送る継立をする設備をもった所のことです。宿場で常備の人馬が不足する場合、幕府や藩に人馬の提供を命じられた村を助郷といっています。

土浦では元文期に常備人馬の不足が深刻化し、不足分が助郷村に転嫁されたため、安永八年(天明三年)には助郷村が三宿(中村・土浦・中貫)を相手取り道中奉行の先触れ(継立の指示書)を拝見したいという訴えが藩役所に出され、助郷と三宿間で交渉が続きましたが、助郷廃止まで対立はなくなりませんでした。

#### 〵三荒川沖宿

昔:荒川沖宿は隣の牛久宿と共同で継立を行いました。本陣はなく、旅籠や茶店などが並び他の宿とは違った賑いがあったということです。

今:牛久と土浦の境界、道を挟んで両側に一里塚があります。東側は牛久市指定文化財の「中根の一里塚」、西側が土浦市指定文化財の「荒川沖の一里塚」になります。道の両側に塚が残り、対となる塚の所在地・名称が異なるのはかなり珍しいということですが、荒川沖郵便局の北に旅籠だった茅葺の佐野屋が残っていました。稲吉宿の皆川屋とともに貴重な建築物ということで、すぐ隣にも茅葺の家が残っていました。

#### 〵四中村宿

昔:中村宿は水戸道中の開通

に伴い、宿場の整備のため集落が移転されたといわれます。本陣は川村茂右衛門が世襲し、問屋は川村伝右衛門家と伊勢屋がとめました。旅籠には扇屋、柏屋、大松屋、市村屋などがあって賑わっていたそうです。宿を抜けて永国村に入ると、真言宗大聖寺があります。

今:原の前交差点を西に入ると、中村宿です。道の途中には石仏・石塔群などがあり、水戸街道を感じさせます。「川村」という表札が多く、中村宿の本陣をつとめていた歴史が今も残っていると感じました。



▲中村宿石仏・石塔群

#### 〵五土浦宿

昔:城下を通る水戸道中には計四〇〇軒ほどの店が軒を連ね、土浦は物資だけでなく、技術や情報、教育などを提供し、江戸時代(現代まで)周辺の経済・文化の中心地でした。

◆霞ヶ浦医療センター近くに愛宕神社と大木があり、街道の名残を感じました。その先にある銭亀橋を渡り、土浦宿に入ります。宿の本陣は残っていませんが、商工会議所のところにあつたそうです。その辺りに宿場の雰囲気はありませんが、中城通りは矢口家住宅や大徳、吾妻庵本店などの古い建物があり、昔は町人や旅人でにぎわつただろうなあと感じました。



▲中城通り

〔六〕中貫宿

昔…本陣は中貫宿の中央、安穩寺参道の正面に位置しています。水戸街道の本陣ではこの本橋家、取手宿の染野家、稲吉宿の坂本家の三軒だけが現存します。他に問屋と旅籠を兼ねる吉田屋、旅籠の富島屋、馬宿などがありました。ここより北は志筑藩領で、それを明示する塚の上には御上杭

が置かれていました。この標石は現在、市立博物館に移設されています。

◆…本陣の本橋家には今も人が住んでいて驚きました。古くとも立派な家でした。周辺も立派な門構えの家が多く、宿場の雰囲気を感じました。また、この中貫宿の助郷村が、僕が住んでいる神立だったことを知りました。去年関の砲術について調べた時、近くの中貫原で実射訓練をしていたという資料があつたので、鉄砲の見物人もきつと多かつたことでしょう。



▲中貫宿本陣の前で

まとめ

水戸街道の中で現在の土浦市に四つも宿場町があるのは、土浦城があつたから特別に多いのかなと考えていました。しかし実際は江戸時代、荒川沖宿は牛久藩領で、中村・土浦・中貫の三宿が土浦藩領

でした。

実際に歩いてみると、石碑や大木、茅葺屋根の家や立派な門構えの家などがあり、歴史を感じるところがたくさんありました。普段何気なく通っている道でも新しい発見がたくさんありました。特に「照井の井戸」はいつも通っている道なのにこのような歴史的なものがあるなんて知りませんでした。また、四つの宿場があつた

ところには、その宿場を任された家の名前が残っているところもあり、特に中村宿は僕と同じ川村という苗字の家がたくさんあり、とても縁を感じました。

水戸街道を通行する人たちは、今と違って電灯もなく不安な気持ちになつたのではないかと思いました。だからこそ、宿場町には泊まるところや食べ物屋があつて、長い旅の中でほっとしたと思いま

す。その中でも、土浦は城下町で、たくさんの方があふれとても賑やかで活気があつたことでしょう。

ただ現在、歴史を伝える石碑の多くは、草むらの中などにひっそりとあり、とても残念な気持ちになりました。重要な文化財をこれからも残していけるようもっと大切に残していきたいと思いました。

第41回子ども郷土研究入賞作品一覧

最優秀賞

水戸街道 二十ある宿場町の五分之一は土浦市!! ～荒川沖宿・中村宿・土浦宿・中貫宿～	菅谷小	6年	川村 航平
---	-----	----	-------

優秀賞

土浦洪水物語	東小	5年	吉田 桃美
かすみがうらの歴史とこれから ～かすみがうらで泳げるように～	土浦二小	5年	関谷 謙
田村の歴史 ～海から台地へ～	上大津東小	6年	鶴田 真世
新・土浦市沖宿町の歴史 ～歴史をつくった人々～	土浦五中	1年	山口 優一

優良賞

歴史のある土浦幼稚園	荒川沖小	5年 3年	佐野 耀太郎 佐野 柚穂
ぼくの住んでいる山ノ荘の宝物	山ノ荘小	3年	佐々木 翔陽

努力賞

霞ヶ浦の昔と今	土浦一中	2年	佐藤 有紗 宇賀神 詩織
レンコンの由来と土浦への普及	土浦一中	2年	小島 圭翔
戦争と土浦	土浦一中	2年	江寺 遼真

学校賞 / 土浦第一中学校